

「ユニバーサル デザイン」 ～誰もが 見やすい・読みやすい・分かりやすい～

●特別支援教育への配慮／カラーユニバーサルデザイン（CUD）への取り組み

<p>全教科での取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●特別支援教育の研究者の指導のもと、すべての児童にとって「見やすい・読みやすい・分かりやすい」を追求し、全ページのデザインやレイアウトを配慮、工夫しています。 ●色覚問題の研究者に校閲を依頼し、カラーユニバーサルデザインの観点から全ページにわたり配色およびデザインの検証を行っています。 ●視覚に障がいのある児童のための、拡大教科書を発行します。 						
国語	書写	社会・地図	算数	理科	生活	家庭	保健
<ul style="list-style-type: none"> ●紙面全体に温かみのあるデザイン、色使いを用い、大切な内容がすぐに目につくようにしました。 →4上 p.18-19 等 ●文字や語を正確に読むための基礎を学ぶ1年入門期において、つまずきやすい特殊音節（長音、促音、拗音）について、視覚化や動作を取り入れて、音の仕組みが体感的にとらえられるよう工夫しました。 →1上 p.39, 49, 64-65 等 ●1, 2年の全単元及び3年第一単元で、単語や文節の途中での改行を避け、どの児童にとっても読みやすくするよう配慮しました。 ●行を見つけたら指示したりしやすくするため、全ての物語・説明文教材の脚注罫に、5行ごとの数字に加え、1行ごとにドット（点）を示しました ●小サイズの振り仮名や解説文には、必要に応じて、ユニバーサルデザインに配慮した「UD書体」を使用しました。 	<ul style="list-style-type: none"> ●読みやすさに配慮し、全ての文章を文節で改行しました。→全学年 ●毛筆の「用具の置き方とあつかい方」では、左利きの児童にも配慮し、用具の置き方についての記述を加えました。また、低学年では教師用指導書付属練習用紙に、左利きの児童の手の配置を示した練習用紙を設けます。 ●「用具のおき方とあつかい方」→3年 p.4 等 ●基本点画一覧では、赤と黒の2色でかつ明度に差をつけた図版を用意し、確認したい点画が文字の中でどこに位置しているかが、ひと目で分かるように工夫しました。 ●基本点画一覧 →4年 p.6-7, p.40 等 	<ul style="list-style-type: none"> ●学習の課題を的確に読み取れるよう、単元の「めあて」、小単元の「学習問題」、本時の「めあて」などは、枠囲みにするとともに、分節で改行しました。 →全学年 ●写真や図表などの資料に見開き単位で番号をつけ、使いやすさに配慮しました。→全学年 ●学習の基礎・基本となるキーワードを囲みの「ことば」欄で強調し、着実に理解できるようにしました。 →3・4上 p.9 等 ●カラーバリアフリーの観点から、図表やグラフなどは、色調の違いだけでなく、模様や形、線種などでも判別できるようにしました。→5上 p.79 等 ●各巻末に設けた「さくいん」では、見やすく、読みやすいユニバーサルデザインに配慮した「UD書体」を使用しました。 →6上 p.156 等 ●地図帳では「UD書体」を全面的に採用し、地名などを読み取りやすくしています。→全体 ●地図帳では、図や写真の説明文などは文節で改行しました。→全体 	<ul style="list-style-type: none"> ●発達段階に応じて、学習段階ごとにブロック分けして、それぞれを1つのまとまりとして視覚的に認識しやすくしました。 →1上 p.4 等 ●イラストの背景をすっきりさせる、刺激の強い色は使わないなど、紙面全体を落ち着いた色調で統一しました。 →1上 p.2-3 等 ●読みやすさに配慮し、すべての文章を文節で改行しました。→全学年 ●すべての問題やまとめなどを枠で囲む、地色をひくなどして、児童が一目で注目できるように、デザインやレイアウトを工夫しました。→3下 p.55 等 ●解答ページなどでは、児童が1人でも読みやすいように、ユニバーサルデザインに配慮した「UD書体」を使用しました。 →5上 p.132-133 等 	<ul style="list-style-type: none"> ●問題解決の各段階を大きな文字で示し、それらを、学習の流れが一目で分かるよう線で結んで示し、すべての児童に見やすく、分かりやすい紙面となるよう、レイアウトを一新しました。 →全学年 ●本文にはすべて、見やすく、読み間違えにくいように開発された活字（ユニバーサルデザインフォント）を使用しました。 →全学年 ●文章を文節の途中で改行せず、まとまりごとに改行（文節改行）することによって、読み間違えることなく、意味がつかみやすくなるようにしました。 →全学年 ●マークなどに色を用いることを控えるなど、本文で多くの色を使用することを控え、全体の色調を、緑色を基調とした淡いトーンで統一し、児童が落ち着いて学習を進められるよう配慮しました。→全学年 	<ul style="list-style-type: none"> ●多様な児童が落ち着いて、穏やかな気持ちで学習や教科書に向き合えるよう、強い色彩の使用を避け、紙面全体を、落ち着いた、淡い色調で統一しました。 ●「やくそく」などのイラストは、背景部を薄く彩色する処理を施し、注目させたい箇所が強調されるようにしました。 →上 p.11, 13, 20-21 等 ●多くの児童に見やすく、分かりやすい紙面となるよう、小単元名や本文、マーク、「やくそく」などの、紙面の各要素の位置を、原則として固定しました。 ●「がっこうだいすき」 →上 p.2-19 等 ●文字の大きさは、低学年児童の読みやすさに配慮しました。 ●専用の教科書体とゴシック体を、役割に応じて適切に使分けるとともに、フリガナには、読みやすさと見やすさを追求したユニバーサルデザイン書体を使用しました。 ●読みやすさに配慮し、文章はすべて文節で改行しました。 	<ul style="list-style-type: none"> ●ふりがなには小さくても読みやすい「ユニバーサルフォント」を使用しました。→教科書全体 ●横幅の広い紙面（AB判）を採用することにより、見やすく書き込みやすい紙面にしました。 →教科書全体 ●強力な接着剤を用いたあじろ綴じで、しっかりと開くことができるようにしました。 →教科書全体 ●横幅の広い紙面を生かして実習を「横の流れ」に統一し、作業の流れを把握しやすくしました。 →p.30-31, p.32-33 等 ●左利きの生徒や、特別支援を要する子どもが安全に実習に望めるように、事前に手を載せてシミュレーションができる「巻末拡大版いつもたしかめよう」を設けました。→p.115, 117, 119, 121 ●誰もが見分けやすい色使いをめざし、ボランティア団体の協力を得て色覚特性の有無にかかわらず見分けられる色使いになるようにしました。→p.14, 73, 23 	<ul style="list-style-type: none"> ●学習の見通しが持てるよう、各時間の学習の課題を項タイトルの横に示しました。 →全学年 ●本文書体を、教科書体から可読性に優れたユニバーサルデザインフォント（UDフォント）に変更しました。→全学年 ●本文以外の文字（ふりがなを含む）もすべてUDフォントを使用しました。→全学年 ●ふりがなは大きく読みやすくするとともに、初出漢字だけでなく、ふりがなが必要な漢字すべてにつけました。→全学年 ●マークは大きく目立たせるとともに、学習の内容がひと目でわかるように、言葉で明記しました。→全学年 ●「つなげよう」のマークは、保健の他学年との関連を示すマークと、他教科との関連を示すマークで、色と形を変えて示し、意味の違いがひと目でわかるようにしました。 →全学年